



環境経営レポート 2021

〔対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日〕

発行日：2021年8月25日



緑でネットワーク
九州林産株式会社

もり
九州電力社有林「次世代の大分森林づくりモデル林」(大分県)

九電グループ
ずっと先まで、明るくしたい。

目 次

はじめに	1
経営方針・環境経営方針	1
沿革 ～ 環境と共に歩んだ歴史 ～	2
会社概要	3
事業活動と環境経営の融合を目指して	4
トピックス「成長分野への挑戦」	6
2020年度環境経営目標・実績・評価	8
2021～2023年度環境経営目標・環境経営計画	9
〈具体的な取組み内容〉	
環境経営方針1 脱炭素社会への貢献	10
環境経営方針2 循環型社会への貢献	12
環境パフォーマンス（今までの取組み成果）	13
環境経営方針3 自然共生社会への貢献	14
環境経営方針4 社会との協調	16
環境経営方針4 社会との協調（環境教育関連）	18
環境経営方針4 社会との協調（指定管理者施設における取組み）	20
環境経営方針5 環境管理の推進	22
代表者による全体評価と見直しの結果	23



はじめに

「自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して社会に貢献します」

当社は、この企業理念の実現に向け、森林管理事業や造園・緑化事業、官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、緑を通じた社会貢献に努め、持続可能な社会の実現に取り組んでまいりました。

今日、脱炭素社会の実現及びSDGsへの取り組みが、世界的な潮流となる中、当社は2030年のありたい姿を「緑を育み未来を創る～お客さまから信頼・感謝される緑のパートナーを目指して～」と定め、事業活動と環境経営の取り組みを一体的に捉え、人と自然の調和を図るとともに、地域の課題解決にも積極的に貢献してまいります。

2021年 8月

九州林産株式会社

「平治岳ミヤマキリシマ群生地」

環境経営

〈経営方針〉

【企業理念】

- 1 自然を守り、
緑豊かな環境づくりを通して
社会に貢献します。
- 2 技術力を高め、
優れた製品とサービスを提供し、
お客さまの信頼に応えます。
- 3 創造力と行動力をつちかい、
活気あふれる
企業風土をつくります。

【行動指針】

- 1 人と自然の調和を求め、
快適環境づくりを考えます。
- 2 知性と感性を磨き、
技術の向上に努めます。
- 3 時代の声、お客さまの声を
今日の仕事に活かします。
- 4 柔軟な発想で新しい価値を創造し
常に可能性に向かって
チャレンジします。
- 5 信頼と協調に努め、
活力ある明るい職場をつくります。

〈環境経営方針〉

【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、持続可能な社会の構築を目指します。

【基本方針】

- 1 脱炭素社会への貢献
脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。
- 2 循環型社会への貢献
廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材などの未利用資源の有効活用等に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。
- 3 自然共生社会への貢献
事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。
- 4 社会との協調
環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。
- 5 環境管理の推進
環境関連法規の遵守はもとより、環境関連情報の共有化を図り、全社一体となって環境マネジメントシステムの品質向上に努めます。

制定日：2007年12月14日

改正日：2021年 7月12日

沿革 ～ 環境と共に歩んだ歴史 ～

■九州電力社有林と当社の歩み

年 表

…九州林産が取り組んだ項目

九州電力の社有林は、今を遡ること約1世紀、1919年に「永久に消えない電灯を灯したい」との思いから同社の前身である九州水力電気が水力発電の水を安定的に確保する「水源涵養林」を目的に山林育成を開始したのが始まりです。

九州の尾根地帯、大分県玖珠川と大分川上流の分水嶺の原野での造林事業では、高冷地で痩せた土地に適した樹品種の選定や植栽密度の工夫など試行錯誤を重ねながら、事業を着実に進め、今日の社有林の礎が築かれました。

現在、九州電力社有林は、大分、熊本、宮崎の3県で計約4,447ヘクタールの緑豊かな森林へと成長し、CO₂の吸収や生物多様性の保全などで、持続可能な循環型社会の形成に貢献しています。

1919 ・九州水力電気が原野造林に着手

1923 ・自社生産苗による植林開始

1942 ・九州水力電気を受け継いで、九州配電が発足

1949 ●九州配電の林業部門から分離・独立して、九州林産が発足し、九州電力社有林の森林経営を受託

1951 ・電力再編成により九州配電から九州電力となる

1960 ・この頃、戦後の拡大造林政策により、1920年頃に植林したスギ・ヒノキ林の伐採による木材出荷と新たな植林の最盛期を迎える

1965 ●電柱が木製からコンクリート製に移行し、社有林としての電柱材供給の役割終了を機に、当社は造園・園芸事業へ参入

1973 ●工場立地法の制定を機に、当社は九電グループ内での緑化・環境維持業務の実績を踏まえ、グループ外の造園工事や工場緑化へと事業を拡大

1995 ・山下池山林が「水源の森百選」に認定

2005 ●九州電力社有林がFSC®森林認証を電力会社として初めて取得
・くじゅう坊ガツル湿原がラムサール条約へ登録

2008 ●新たな事業領域として指定管理者制度へ参入
●EA21認証取得(本店)、翌年、全社認証を取得

2011 ・大分県の「次世代の大分森林づくりモデル林」の第1号に山下池山林が指定される。翌年、飯田山林がモデル林第5号に指定。翌々年、平家山林がモデル林第15号に指定される

2014 ●「生物多様性ガイドライン」策定
●環境教育の場として、九州電力社有林内に「くじゅう九電の森」を整備

2016 ●九電みらい財団と本格的な環境教育への取組み開始

2019 ・九州電力社有林が100周年を迎え、上賀茂神社(京都市)の鳥居の建替え用として、樹齢100年のヒノキを奉納

2020 ●森林資源の見える化サービス(森林資源の調査)を開始
●九州電力社有林でのJ-クレジット創出に向けた取組みを開始



約90年前の苗木の植え付けの様子



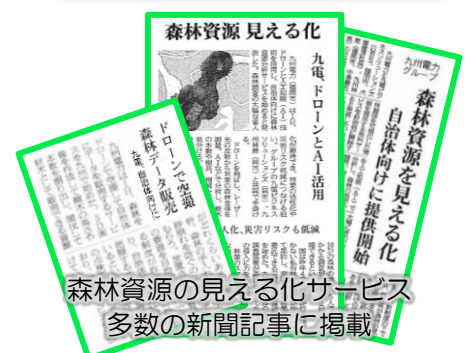
福岡市 石丸中央公園整備工事



FSC®認証材を使用したテーブル



環境教育での間伐体験



森林資源の見える化サービス
多数の新聞記事に掲載

会社概要

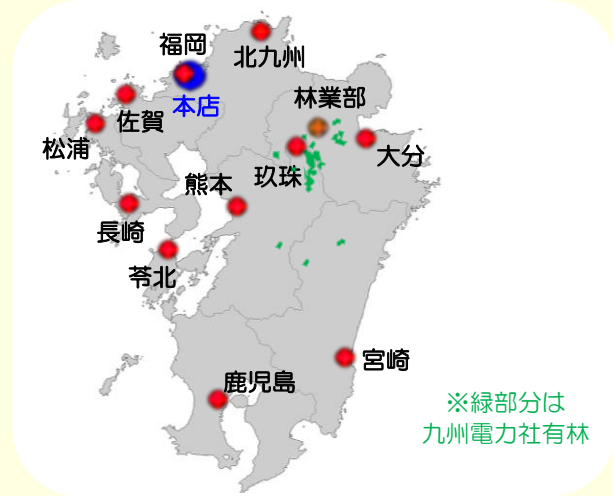
■ 概要

(社 名) 九州林産株式会社
 (代 表 者) 代表取締役社長 中島 豊
 (資 本 金) 4億9000万円
 (事業所・規模・所在地)

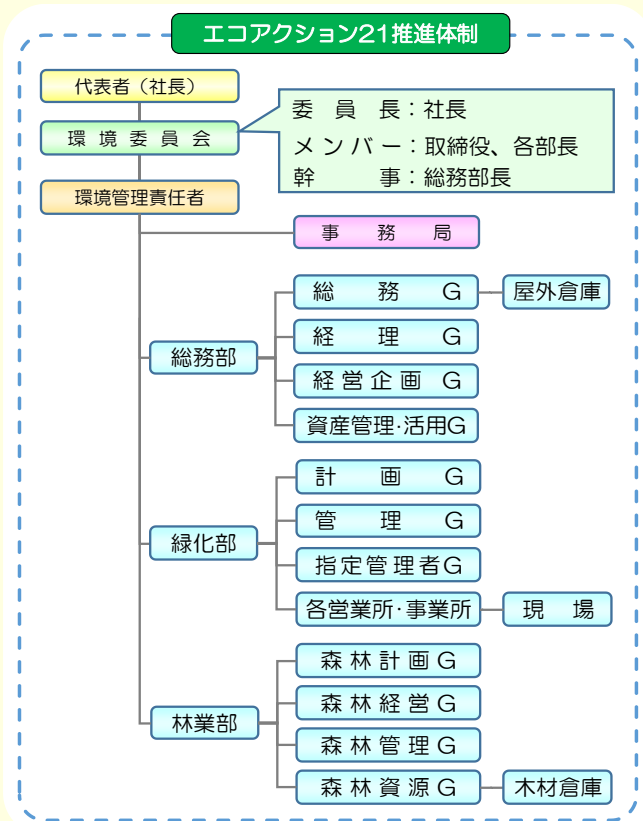
(事業活動) 土木工事業、建築工事業、造園工事業、園芸事業、
 とび・土工工事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業
 (許 認 可) 国土交通省大臣許可 特28-第1615号
 ・特定 造園工事業 ・特定 土木工事業
 ・特定 とび・土工工事業 ・特定 建築工事業

(2021/3/31現在)

対象事業所	事業規模		所在地
	従業員数	の床面積	
本 店	34人	1,894.94 m ²	福岡市南区野間3丁目7番20号
福岡営業所	7人		
林 業 部	25人	1,028.17 m ²	由布市湯布院町中川815-1
北九州営業所	6人	39.77 m ²	北九州市小倉北区米町2丁目2番1号(新小倉ビル)
大分営業所	5人	79.20 m ²	大分市大字青崎4番1
玖珠事業所	2人	38.00 m ²	玖珠郡九重町大字田野字中村下野1672-61
佐賀営業所	5人	100.43 m ²	東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112-1
長崎営業所	4人	88.00 m ²	西彼杵郡長与町高田郷1809-1
松浦事業所	2人	132.50 m ²	松浦市志佐町白浜免字楼栢田302
熊本営業所	5人	56.70 m ²	熊本市東区健軍2丁目18番26号(入大ビル2F)
苓北事業所	4人	116.28 m ²	天草郡苓北町大字年柄字苓陽1091-6
宮崎営業所	3人	101.31 m ²	宮崎市江平西1丁目3番6号(第8丸三ビル841号)
鹿児島営業所	5人	106.90 m ²	鹿児島市下荒田3丁目24番7号
合 計	107人	3,782.20 m ²	



■ 組織図



■ 主な資格取得者一覧 (2021/3/31現在)

造園施工管理技士(1・2級)	50名
土木施工管理技士(1・2級)	42名
造園技能士(1・2級)	8名
建築士(1・2級)	2名
建築施工管理技士(1・2級)	1名
測量士	1名
公園管理運営士	1名
林業技士	8名
森林情報士(1・2級)	6名
森林管理士	11名
環境教育インストラクター	7名
ビオトープ管理士(1・2級)	8名
森林インストラクター	5名
森林施業プランナー	3名
衛生管理者	4名
建設業経理士(1・2級)	16名

■ 環境管理責任者及び担当者

(責任者) 総務部 経営企画グループ
 グループ長 徳留 雅大
 (担当者) 総務部 経営企画グループ
 笠 このみ・林 香那美
 (連絡先) 092-562-3014
 (URL) <http://www.q-rin.co.jp>



■ 当社の環境経営とSDGs

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。当社はSDGsに関連する環境経営に取り組んでおり、今後も事業活動を通して、社会課題の解決に貢献していきます。



事業活動と環境経営の融合を目指して

当社は、中期経営計画において「新たな価値の創造」「緑豊かな環境づくり」「人を活かす」をミッションとし、「環境を守る」「緑をつくる」「森を育て活かす」をキーワードに据え、緑に関わる事業活動を通じて、社会との共有価値の創造に努め、「脱炭素社会への貢献」「循環型社会への貢献」「自然共生社会への貢献」「社会との協調」を中心に「環境管理の推進」を実施し、自然を守り緑豊かな環境づくりに取り組んでいます。

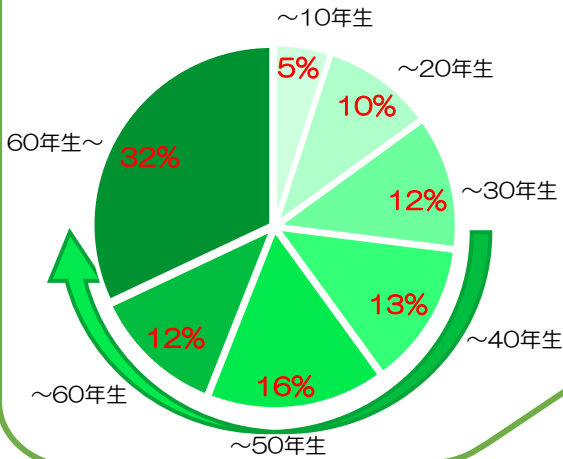
循環型社会への貢献

〈持続可能な森林経営〉

当社は、苗木生産から植栽・育成管理・伐採・加工・販売と一貫した森林経営を実践しており、計画的な資源循環を通じ、木質資源の安定供給に努めています。

(標準伐期：61年生以上)

九州電力社有林年生別本数構成



次世代の大分^{もり}森林づくりモデル林
群状択伐施業地
(モザイク状複層林)

環境管理

循環型社会への貢献

環境を

- 環境経営を脱炭素社会へ貢献します

緑をつくる

- 事業で培った高い技術力を活かし、お客さまに評価される「緑化の付加価値」を提供します

緑豊かな環境づくり

自然共生社会への貢献

電力
効率化・

事業基 人を

自然共生社会への貢献

〈環境緑地創出と環境保全対策〉

当社は、環境や景観に配慮した緑地創出により、自然共生社会への貢献に努めています。

一例として都市緑化や屋上・壁面緑化をはじめ、自然環境復元、公園整備などにも取り組んでいます。



脱炭素社会への貢献

〈適正な森林管理によるCO₂吸収〉

当社は、FSC®森林認証に基づく森林管理により、持続的な経営と環境配慮との両立に努めています。

適正な間伐により収穫量の拡大を図ることは、樹木の生長量の増加を促し、森林のCO₂吸収力の最大化にもつながります。

- 九電社有林面積：4,447ha（PayPayドーム 630個分）
- 2020年度生長量：38,982m³（人工林のみ）
- 2020年度CO₂固定量：130.5万 t

〈木材のカスケード利用によるCO₂固定〉

2020年度の木材生産量→12,012m³

建築材

合板材

パルプ材

端材・末木等はバイオマス燃料として活用



もり
次世代の大分森林づくりモデル林
ヒノキの長伐期施林(伐期:120~130年)

社会との協調

〈九電社有林での環境学習〉

当社は、九電みらい財団と協働し、次世代層を中心とした環境教育を展開しています。森林の役割や環境配慮の重要性を講話やフィールドワークを通じ、参加者の記憶に残る体験となるよう工夫しています。

〈多彩なコミュニケーション活動〉

当社は、自治体から受託する施設にて、自然観察会や収穫祭、里山ボランティアなど多彩な環境イベントを開催し、地元の皆様との交流に努めています。



森の教室

林業体験



生き物観察会

米づくり体験

新たな価値の創造

- 未来洞察の観点からイノベーションを創発し、成長事業へ積極的にチャレンジします

成長分野への挑戦

- スマート林業
- J-クレジットなど

の推進

守る

通じて
の実現
す

森を育て活かす

- 豊富な森林経営管理の経験や技術力を活かし、林業の成長産業化に貢献します

サポート事業の
取組強化

盤強化

活かす

脱炭素社会への貢献

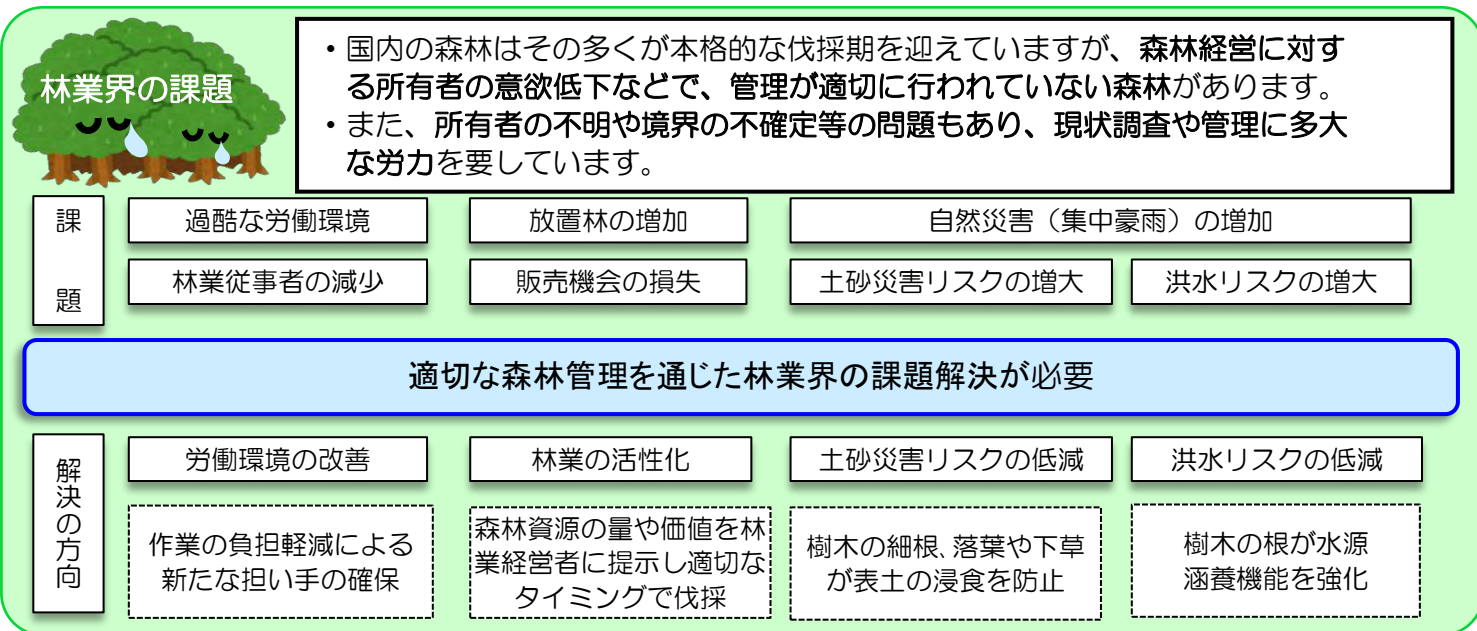
保有技術を活かした事業展開

グループ外への事業拡大

社会との協調

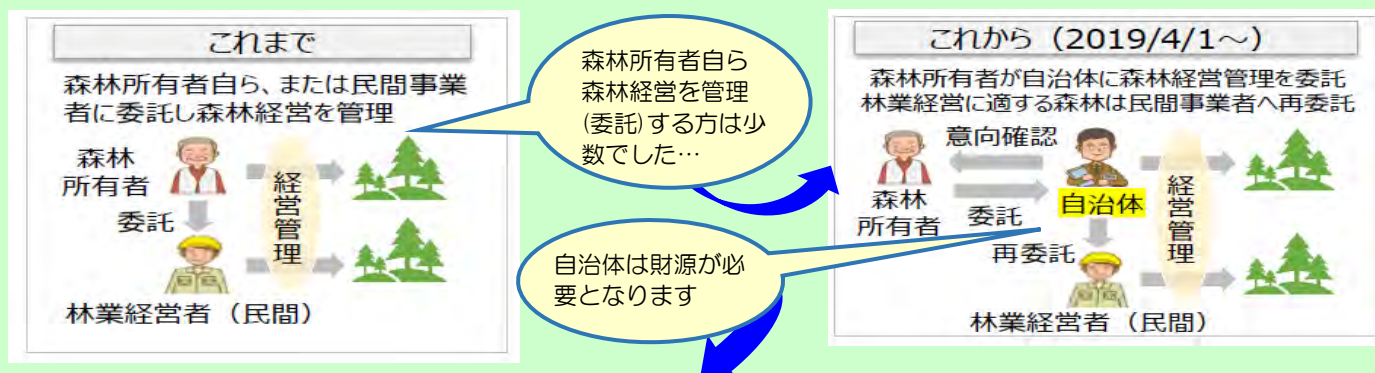
トピックス「成長分野への挑戦」

■ 林業の課題



■ スマート林業「森林資源の見える化サービス」

- ・ 経営管理が行われていない森林について、自治体が仲介役となり森林所有者と担い手を繋ぐシステムである「**森林経営管理制度**」がスタート
- ・ 手入れの行き届いていない森林について、自治体が森林所有者から経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託をするとともに、林業経営に適さない森林は自治体が管理することで森林の経営管理を確保し、「**林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図る**」こととしています。



- ・ 林業界が抱える課題解決のために「**森林環境(譲与)税**」が設けられ、「森林整備及びその促進に関する費用」などに充当されることになりました。
- ・ 自治体は、森林所有者から森林経営管理を委託された森林について、森林資源等の情報を正確に把握することで、より適切な森林管理が可能となります。

- ・ 自治体が森林資源等の情報を正確に把握するにあたり、お役に立てるよう九電グループ会社3社(九州電力・九電ビジネスソリューションズ・当社)で取り組んだのが、「**森林資源の見える化サービス**」です。
- ・ このサービスは、ドローンによる3D測量データを、AIを活用して分析し、森林資源を可視化するものです。高精度なレーザー測量とAI技術により、森林の地形や境界を地図上に表示するほか、樹木の本数や直径などを正確に把握することが可能となります。

森林資源の見える化サービスによりスマート林業を支援



当社は九州電力社有林において、100年間にわたる持続可能な森林経営のノウハウを持っています。このノウハウを最大限に活用し、課題を解決することで、林業の活性化に貢献していきます！

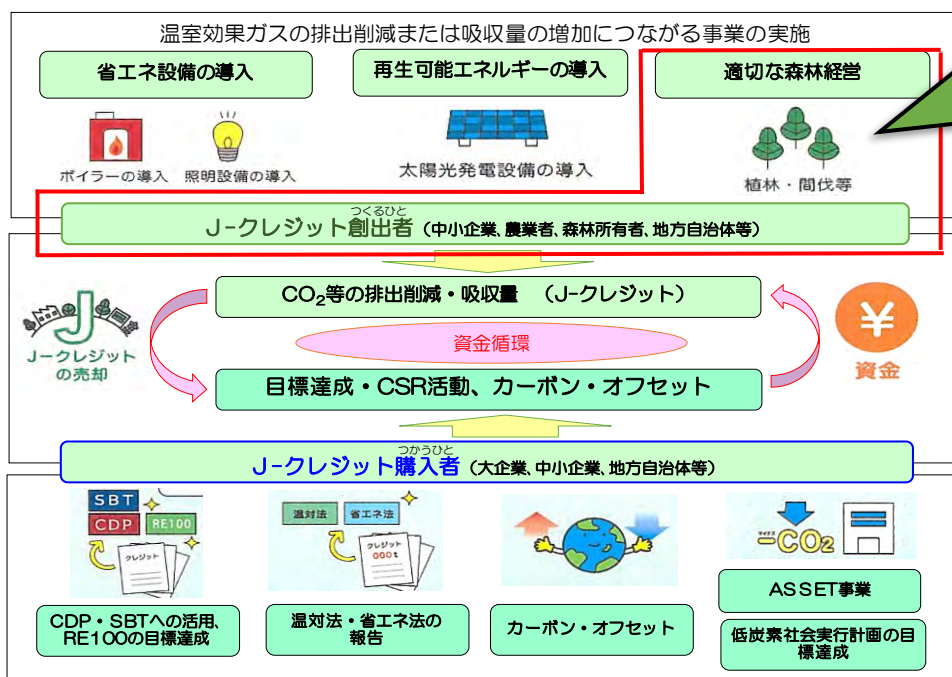


今までは山の中を歩き回って調査していました

J-クレジット創出支援

- ・カーボン・オフセットの取組を推進するために設けられたのが、**J-クレジット制度**です。
- ・これは、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

※**カーボン・オフセット**とは、日常生活や企業等の活動で、どんな努力をしても発生してしまうCO₂(カーボン)を、森林による吸収や省エネ設備への更新により創出された削減分で埋め合わせ(**オフセット**)する取組です。



【当社の取組み】
九州電力社有林での知見を活かし、J-クレジット創出に向けた支援(申請代行)を実施していきます！J-クレジット創出の支援により、カーボン・ニュートラル実現への貢献を目指していきます。

- ・**CDP**: 投資家向けに企業の環境情報の提供を目的としたNGO。企業の取組を調査、評価し公表
- ・**SBT**: パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標として企業が設定する、温室効果ガス削減目標
- ・**RE100**: 事業活動で使用する電力を全て再生可能エネルギー由来の電力で賄うことをコミットした企業が参加する国際的なイニシアチブ
- ・**ASSET事業**: CO₂排出量が多い部門での先進的な設備導入、運用改善促進及び市場メカニズム活用により排出量の大幅削減を効率的に図る制度

出典：J-クレジット制度ホームページ (<https://japancredit.go.jp/>) 「J-クレジット制度について」をもとに九州林産株式会社作成

- ・認証されたクレジットは、購入することができ、温対法報告における排出係数の調整やカーボン・オフセット等、様々な用途に活用できます。
- ・また、クレジット購入代金は、クレジット創出者に還元され、さらなるCO₂等の排出削減・吸収の取組や、地域活性化等に活かすことができます。

2020年度環境経営目標・実績・評価

環境負荷低減活動を一步一步積み上げてきた結果、「当たり前前を当たり前と捉えず改善を図る」という意識が全社員へ浸透し、高い水準での取組みが継続されるようになりました。

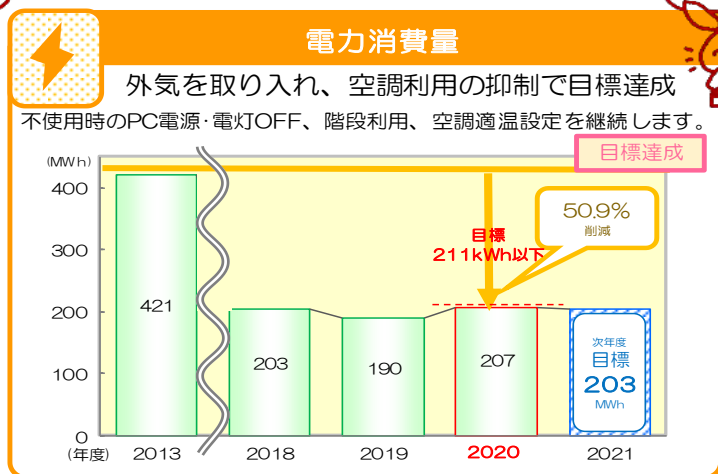
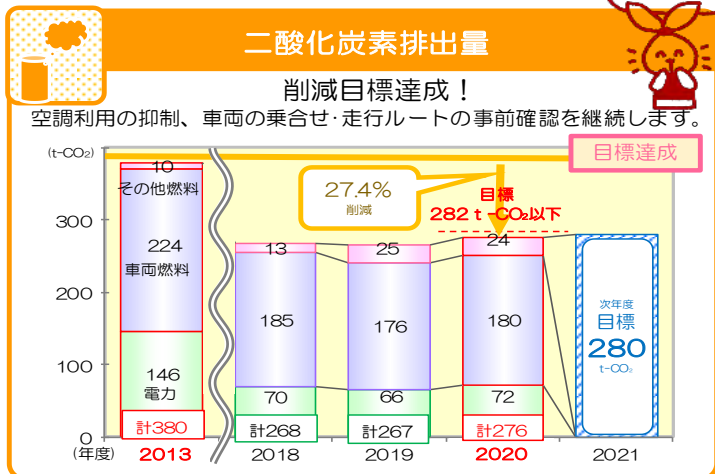
環境方針	環境経営目標	実績	※1		2020年度		
			実績評価		主な取組み内容		
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO2)	282 以下	276	○	<ul style="list-style-type: none"> ・節電、声掛けを実施 ・冷房28℃、暖房19℃に室温を設定 ・扇風機や加湿器をエアコンと併用 ・昼休みの消灯
		運輸面でのCO2排出抑制の推進	電力消費量(単位:MWh)	211 以下	207	○	
		事業所における省資源活動の推進	車両燃料消費率 (単位:km/ℓ)	13.1 以上	13.8	◎	
	オゾン層の保護	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み	上水使用量(単位:m3)	830 以下	896	×	<ul style="list-style-type: none"> ・本店で漏水が発生、使用量が大幅に増加し目標未達
電化の推進	オール電化の推進 社有車のEV化推進					<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の点検を各所で実施 ・オール電化PR資料を設置 ・社有車のEV化を検討 	
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg)	1,280 以下	1,233	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底
			産廃リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	オフィス・工場	95.0 以上	91.3%	
		環境リサイクル事業の積極的活用	現場	95.0 以上	99.2%	○	
	循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)	33.0 以上	47.3%	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用材の利用拡大に向け、販路拡大に努力 	
グリーン購入の徹底	事務用品(紙類、文具類)とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)	95.0 以上	97.5%	○	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底 	
3 自然共生社会への貢献	自然共生社会の形成に寄与する事業活動の展開	緑化工事受注件数(単位:件)	200 以上	230	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な提案営業が受注実績に結びつき、緑豊かな社会に貢献 	
		環境保全の推進	希少種の保全活動				<ul style="list-style-type: none"> ・希少種巡視活動を12回実施(21種を確認)
	生物多様性への取組み	事業における環境リスクの低減				<ul style="list-style-type: none"> ・施業前にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認 	
	化学物質使用量の削減	環境上の事故及び緊急事態への準備・対応				<ul style="list-style-type: none"> ・代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質を抑制 ・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施 	
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境情報の積極的な公開				<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポートを営業活動時や就職説明会などで配布(84部) ・ホームページでのレポート公開 	
	地域における環境活動の推進	環境経営レポートの内容充実と積極的な活用					
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	地域に密着した環境活動への取組み				<ul style="list-style-type: none"> ・社内外の清掃活動、計20回に延べ63人の社員が参加 ・九電みらい財団と協働し環境教育計3回開催(延べ246人参加) 	
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境教育の内容充実と自律的					
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み				<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査(運用業務支援)を9箇所を実施 	
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定				<ul style="list-style-type: none"> ・環境関連データの全社大での確実な把握に努めた 	
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み				<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目標の達成状況及び環境経営計画を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施 	
環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加	環境会計データの確実な把握と活用				<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表 	
	九電グループ情報ネットワークの活用による環境情報の共有化					<ul style="list-style-type: none"> ・九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加 	
環境関連法令の順守徹底	環境法規制等の特定					<ul style="list-style-type: none"> ・社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ2回参加 	
	環境法規制等遵守状況の確認・評価					<ul style="list-style-type: none"> ・環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗出し(棚卸し)を確実に実施 ・環境法令遵守状況に問題が無いことを確認 	

※1 ◎：目標比で5%を超える達成項目、○：目標達成項目、×：目標未達項目

2021～2023年度環境経営目標・環境経営計画

2021年度以降の中期的な目標においても、「現行水準を維持・向上すること」を基本的な考えとしてしています。なお、2021年度以降の目標は、過去3カ年実績値を基に設定しました。

取組評価	環境方針	2021～2023年度		関連する 主なSDGs
		環境経営目標	主な環境経営計画	
○	1 脱炭素社会への貢献	280以下	<ul style="list-style-type: none"> 空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底 パソコン・プリンタ等の不使用時電源オフの徹底 始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進 	       
		203以下	<ul style="list-style-type: none"> 車両更新時における低公害車への計画的切替の実施 エコドライブの確実な実施 	
		13.5以上	<ul style="list-style-type: none"> 節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行 	
		790以下	<ul style="list-style-type: none"> 法定点検を確実に実施。空調入替の際には規制対象フロンの確実な回収と代替化の取組みを実施 	
			<ul style="list-style-type: none"> お客さま来訪時に目につく場所(本店玄関ホール)を活用し、オール電化のPRを実施 EV車へ入れ替え可能車両について精査し、EV車導入に合わせて、高速充電器の設置を検討 	
○	2 循環型社会への貢献	1,220以下	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進 古紙リサイクルの徹底 	    
		95.0以上	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物(水銀使用製品含む)の分別徹底 産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底 機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施 	
		95.0以上	<ul style="list-style-type: none"> 林地残材の有効利用率の向上、及び間伐における低質材の利用向上 	
		34.0以上	<ul style="list-style-type: none"> 電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底 	
○	3 自然共生社会への貢献	190以上	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな社会に貢献するため、緑化工事を推進 	        
		定期的な情報収集とマッピング	<ul style="list-style-type: none"> 蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理へ向け各種活動の展開・改善を実施 	
		チェックリストの活用・充実	<ul style="list-style-type: none"> 各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施行推進並びに施業完了後の影響評価の実施 	
		影響の最小化と使用抑制	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類についても代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制 	
			<ul style="list-style-type: none"> 環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善 	
○	4 社会との協調		<ul style="list-style-type: none"> 環境経営レポートの内容充実、ホームページ等での公開 協力会社やお客さまへのコミュニケーションツールとして積極的に活用 	     
			<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加 くじゅう九電の森での環境活動のモニタリング実施(100%実施) 	
○	5 環境管理の推進		<ul style="list-style-type: none"> 内部監査(運用業務支援)の際、EA21監査を同時に実施 	        
			<ul style="list-style-type: none"> 環境関連データの全社大での確実な把握に努め、的確な目標管理と設定目標の実効性向上 	
			<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施 	
			<ul style="list-style-type: none"> 環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表 	
			<ul style="list-style-type: none"> 九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加するとともに、社内環境勉強会を検討・実施 	
			<ul style="list-style-type: none"> 九電グループ情報ネットワーク内の「九電グループ環境情報」を積極的に活用し、環境情報の共有 	
			<ul style="list-style-type: none"> 環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗出し(棚卸し)を確実に実施 環境法規等の特定および遵守状況評価の実施 	



■ 国のCO2削減目標に対する当社の削減率(2013年度比)

国は、2030年までの二酸化炭素排出量削減目標を2013年度比46%減とする新目標を発表しました。当社は2020年度は2013年度比で27.4%の削減をしました。

■ WEB会議システムの活用

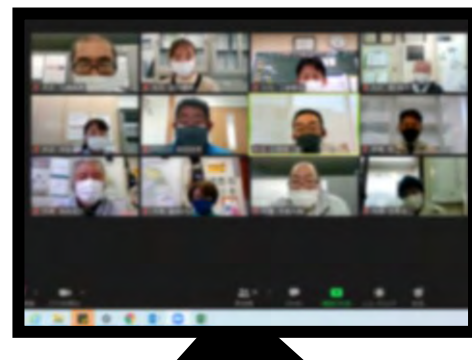
2020年度は、コロナ禍の影響もあり、WEB会議システムを導入しました。このため、会議出席等での移動は大幅に減少しており、移動時の車両燃料を抑制したことで、CO₂排出量の抑制につながっています。



WEB会議に参加する
緑化部 深田社員



新入社員研修をWEB会議で開催
(遠隔地勤務者対象)



緑化部 スタッフ研修(Zoom画面)

■ 燃費ランキング表彰による取組み意識向上

北九州営業所では、誰が一番燃費良く運転出来たかを競い合い、燃費改善に取り組んでいます！



燃費ランキング表彰の様子

北九州営業所 (後列左から)
榎社員 大畑社員 白川所長 仙頭社員

ニッサン ティーダ
ラティオ

EA21目標燃費
12.5km/ℓ

※このまま行きます賞※

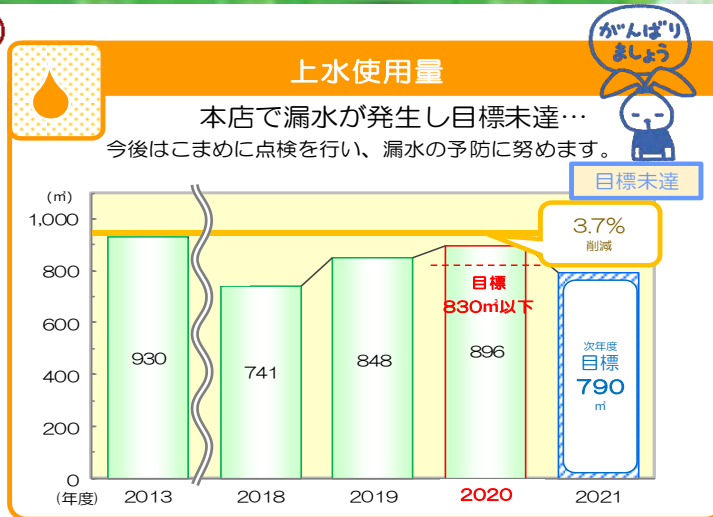
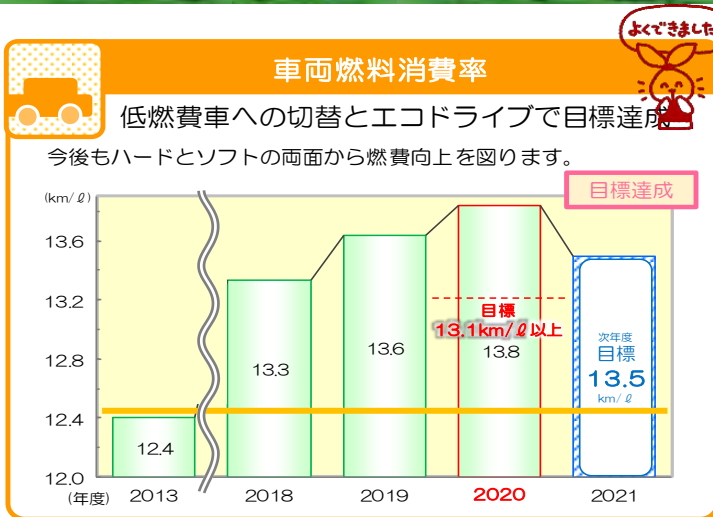
4 ~ 12 月給油間燃費は
平均 17.1km/ℓ 1位

エコドライブを心がけましょう！！

2019年度 平均 15.9km/ℓ

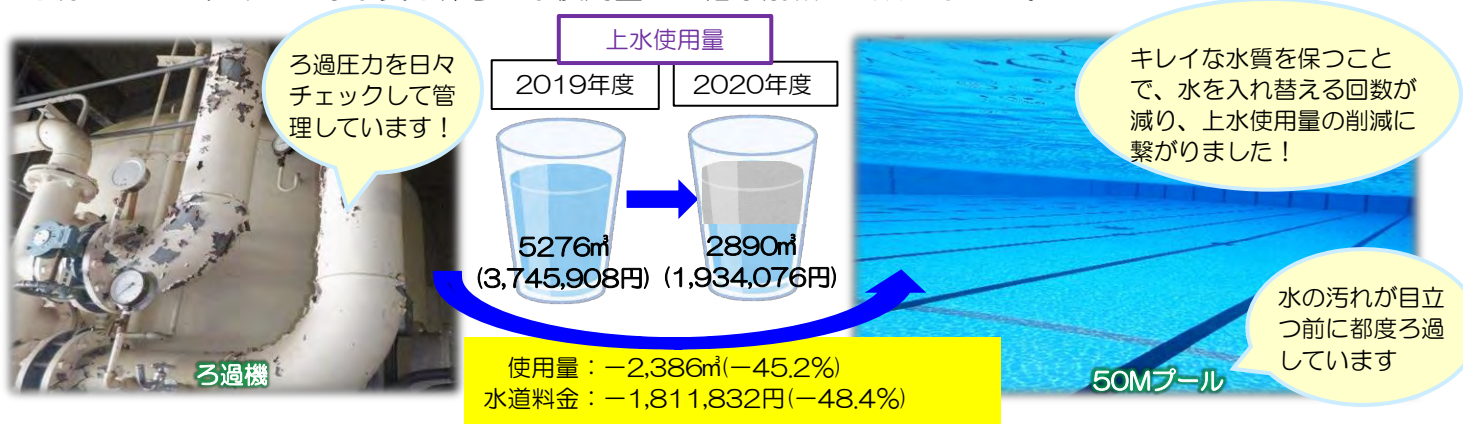


1位は
白川所長でした！



文化記念公園プールの水質管理法の見直しによる上水使用量削減

指定管理者施設の北九州市立文化記念公園ではプールを運営しています。2020年度は、水質管理方法を全てマニュアル化し、作業を統一化しました。また、専属の水質管理担当者を配置し、きめ細かな水質管理を行うことで、キレイな水質を保ち上水使用量の大幅な削減に成功しました。



オール電化の推進

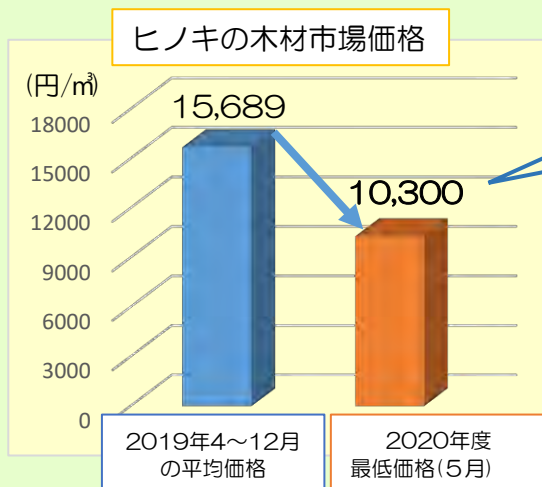
九州電力社有林のFSC®認証材を利用し、クッキングヒーターに木製の架台を使用することにより、IHの安全性のアピールに寄与することができました。(これまでに累計、123台制作しました)



コロナ禍の影響・・・！「木材市場価格の下落」

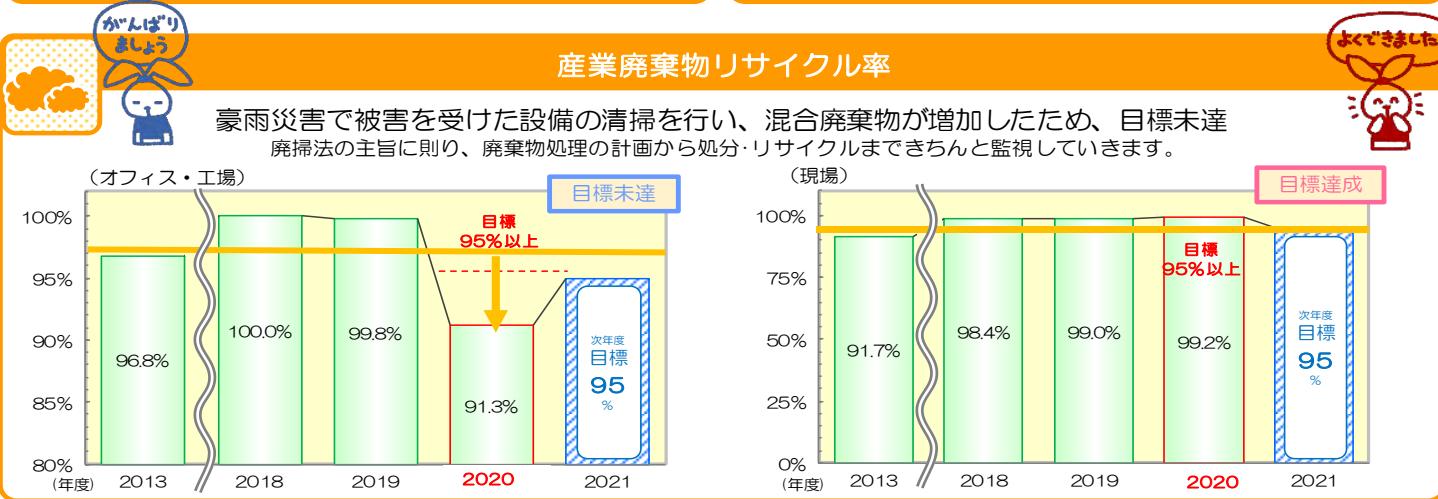
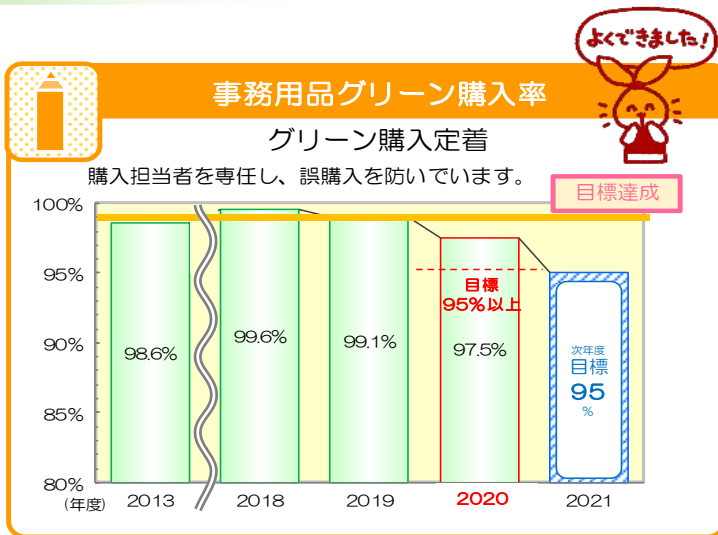
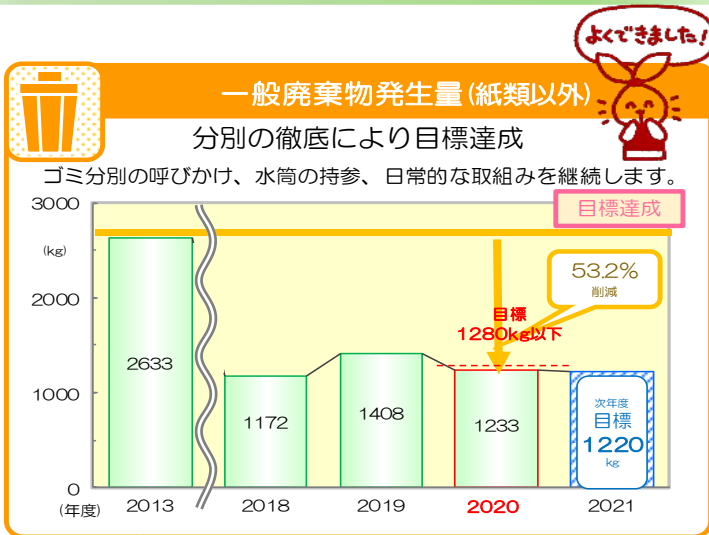
コロナ禍の影響により、国内の消費マインドが落ち込み、木材需要者である建築・建設業が苦境に立たされ、その影響は木材価格の急落により、林業や製材業にも波及しました。

当社は、山土場での出荷調整を行い、経営への影響を最小限に抑えました。



1m³あたり5,389円下落 (-34.3%)





■ 一般廃棄物の分別

廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する市町村の基準に沿った分別の徹底を環境経営計画に掲げ、取組みを行っています。



機密文書を含む古紙リサイクル率100%の取組が定着しています！

機密文書を専用袋に分別する
緑化部 染川社員

■ 廃棄物の再資源化

指定管理者として管理運営している各施設では、ゴミの再資源化に努めています。

日々の緑地管理業務で発生する草本類や竹類、農園から出る残渣などの再利用により、ゼロエミッションを目指しています。



農園から出る残渣を集積・発酵させ、堆肥化を行っています。出来上がった堆肥を、園内の畑などに使用しています。ぶどうやみかんなどを収穫するのが楽しみです！(*´▽`*)!!



環境パフォーマンス(今までの取組み成果)

環境負荷低減活動の結果を物質量とコストの両視点で整理しました。

マテリアルバランスにおいては、廃棄物リサイクル率が97.1%に達し循環型社会へ大きく貢献しています。

環境負荷低減活動の継続による環境負荷削減量とコスト削減金額

分類	単位	物 質 量					金 額 (単位:千円)				
		2013年度	2018年度	2019年度	2020年度	削減量 (2013年差)	2013年度	2018年度	2019年度	2020年度	削減金額 (2013年差)
電力	MWh	430.0	211.6	201.4	214.0	216.0	10,625	5,228	4,977	5,288	5,337
車両燃料	kℓ	93.9	78.0	74.3	76.1	17.8	12,705	10,600	10,106	10,361	2,345
その他燃料	kℓ	3.8	4.8	9.3	9.1	-5.3	286	361	699	681	-394
水道	m ³	930.0	789.0	906.0	947.0	-17.0	424	360	413	432	-8
廃棄物処分	t	384.0	15.7	44.9	48.3	335.7	384	528	240	233	151
廃棄物リサイクル	t	3,776.0	1,826.4	1,464.6	1,643.3	2,132.7	4,174	9,346	4,274	6,087	-1,913
※廃棄物リサイクル 2013年度は、特殊要因(製材機械売却)により増加				合 計			28,599	26,423	20,709	23,081	5,518

環境負荷削減に伴うコスト削減



■マテリアルバランス



当社が管理している九州電力社有林の2020年度CO₂固定量は130.5万t (事業活動におけるCO₂総排出量の約4,684倍に相当)

総リサイクル率 97.1%達成

※水資源投入量に対する総排水量の減少は木材乾燥機稼動時の蒸発によるもの

…オフィス・工場、

…現場

当社は、多様な生物生育環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、活動の実施とともに、データの収集・分析、改善策の検討・提言にも取り組んでいます。

■ 希少種の保全活動

〈巡視活動〉

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を実施しています。

巡視活動で確認された希少植物
(2020年度)



- ・アギナシ
- ・クサレダマ
- ・ケナガシロワレモコウ
- ・コバノトンボソウ
- ・サギソウ
- ・サワギキョウ
- ・シラヒゲソウ
- ・タチカモメツル
- ・チョウセンスイラン
- ・トキソウ
- ・ノハナショウブ
- ・ヒメシロネ
- ・ヒメユリ
- ・ホザキノミミカキグサ
- ・マルバカモメツル
- ・ミスオトギリ
- ・ミスチドリ
- ・ミズトンボ
- ・ミタケスゲ
- ・モウセンゴケ

〈定点写真観測・植生調査〉

くじゅう地域の希少種・ミヤマキリシマと湿地帯の希少植物を定点観測・調査しています。



2020年度も、美しい花を咲かせ、多くの登山者で賑わいを見せました。



令和2年7月豪雨の影響があったものの希少種を複数株確認しています。希少植物を保護するために、毎年秋に草刈を実施しています。

〈九州電力社有林内希少植物巡視〉

九州電力社有林で希少植物を発見した場合、その植物を保全しています。

2020年度は希少種・エビネランの葉焼けを防止するために、移植作業を実施しました。移植後に植生維持も確認しています。



エビネランを移植する安仲副長



移植後のエビネラン

■ 生物多様性に配慮した施設運営（かなたけの里公園）

当社が、2014年度から管理業務を開始した、指定管理者施設の「かなたけの里公園」では、多様な植物や生き物と人とが共生できる環境づくりに取り組んでいます。特に「生物多様性への取組み」については、各分野の専門家などを運営スタッフとして採用し、次世代層への教育活動や多様性保全環境づくりなどを、管理運営の中で提案・実施しています。

〈観察会の開催〉



オンライン観察会（冬）



オンライン観察会（夏）



春の里山観察会

ハンディカメラでオンライン

コロナ禍の影響により、各種プログラムが中止、ハンディカメラを活用したオンライン観察会等に切り替えての開催、通常より募集人数を減らしての開催となりました。

〈生物多様性に配慮した管理〉

生物多様性に配慮した管理手法を提案し、福岡市から採用されています。

今後も、「生物多様性への取組み」と「地域との協働」をキーワードに改善提案を継続し、地域の環境保全とお客さまへのサービス向上を目指していきます。



生物多様性の保全研修

地域のみなさんと生息する昆虫を採取しました。



伐採材の活用

〈生きもの調査〉

日本野鳥の会福岡支部と協働し、野鳥を中心とした、花や動物、昆虫などのモニタリング調査を実施しています。また、福岡県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているニホンアカガエルの産卵が確認されており、卵塊の調査と保全活動を実施しています。



ニホンアカガエル



ニホンアカガエルの卵塊



ゲンジボタル



ニホントカゲ



ミツバチ

■ 地域社会との協調

〈九州高圧コンクリート工業(株)・九電テクノシステムズ(株)・九州林産(株) 3社合同清掃活動〉

2021年3月に九電グループ会社合同で、福岡市南区塩原中央公園の清掃活動を実施しました。当社からは、中島社長をはじめ計13名が参加しました。



九電グループ3社合同清掃

- (左)九州林産株式会社
- (1列目)石丸取締役 中島社長
- (2列目)加藤社員 植村社員 林社員
- (3列目)溝部社員 染川社員
- (4列目)徳留グループ長 横内グループ長 三輪部長
- (撮影：木道グループ長 笠社員 豊福社員)

- (中央)九電テクノシステムズ株式会社のみなさん

- (右)九州高圧コンクリート工業株式会社のみなさん

〈清掃活動の実施・参加〉

地域貢献活動の一環として、事務所周辺並びに当社が指定管理者として運営する公共施設周辺の清掃活動や社外主催の清掃活動へ積極的に参加しています。

(全社で計20回、延べ63名が活動・参加)



湾岸清掃
大分営業所
岡部社員

湯布院事務所周辺清掃

- 林業部 酒井社員 安仲副長 右田グループ長

〈緑ふれあい運動〉

2009年度から60周年記念事業として、地元の養護施設などへフラワーボックスを寄贈してきました。現在も活動を続け、地域の方々に喜ばれています。(北九州営業所)



プランターを寄贈しました🌸

〈設備支障の早期発見と通報〉

西福岡変電所防草対策工事にて作業箇所へ立ち入った際に、配電線電柱の設置線が断線していることを発見し、直ちに九電ハイテック工事管理員に連絡し、設備損壊への発展を未然に防止しました。当社の迅速な対応が電力の安定供給に大いに貢献したと評価され、感謝状をいただきました。



〈貸店舗施設「もくあみの杜」リニューアル〉

湯布院の観光名所である金鱗湖のそばにある、木造集合型貸店舗施設「もくあみの杜」において、環境に配慮した塗料を使用し、カビ取り清掃を実施しました。外観も、落ち着いた色のあるダークブラウンにリニューアルしました。



■ 事業活動を通じた地域社会との協調

〈社有林の整備〉

福岡県宗像市名残の社有林を2021年2～3月に整備しました。通学にも使用されている道路のため、安全面を考慮し、見通しが良くなるように配慮しました。



〈令和2年7月豪雨での被害状況調査と復旧工事〉

当社は、令和2年7月豪雨（大分県）による被害状況の調査を、迅速に行い、年度内に九州電力社有林の復旧工事を完了しました。



環境経営方針 4 社会との協調（環境教育関連）

当社では、九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務の中で、地域の方々や工場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、多くの皆さまとの体験を通じた環境コミュニケーションを展開しています。

■ 「くじゅう九電の森」における環境教育

〈学んだことを体験し理解を深める〉

当社は、九電みらい財団とともに、九州電力社有林を舞台とする環境教育に取り組んでいます。2020年度は、コロナ禍の影響により、26回の開催計画に対し、感染対策を講じたうえで、3回開催し、246名の方々にご参加いただきました。

🌲 テーマ：『自然の中で楽しみながら学ぶ』 🌲
講話で学んだ知識を体験し、実感することで、参加者の深い理解を促進します

地球温暖化の現状・森林の水源涵養機能
・CO₂の抑制効果 について学ぶよ



〈公益財団法人九電みらい財団〉

九電みらい財団では、2016年5月の設立以来、九州の豊かな自然環境の保全活動や環境教育活動、次世代育成支援活動を通じて、九州地域に広く貢献することを目的とした事業を展開しています。

当社は同財団と協働し、九州電力社有林を舞台に、林業体験や環境諸活動へのサポートを通じ、子どもたちの「自然を大切に作る心」を育ててまいります。



九電みらい財団HPより <http://www.kyuden-mirai.or.jp/>



■ 九州大学との連携

当社は、九州大学大学院芸術工学研究院の学生が取り組む、家具のデザイン・設計・作成の参考として、森林教育や木材の特質に関するアドバイスをを行い、当社の木材を提供しました。



学生に木材について説明する林業部 日野グループ長

■ かなたけの里公園における環境教育

かなたけの里公園では、「里」をテーマに、人々の営みと農業との繋がりを尊重する“農ある暮らし”と共に、様々な環境教育に取り組んでいます。2020年度はコロナ禍の影響により多くのイベントが中止となりましたが、地元の小学生を招いて、計5回開催し、670名の方々にご参加いただきました。

竹ごはんづくり

竹を切るよ



切った竹にお米をセット!



お米を研いで…



竹ごはんの
◆完成◆



グツグツ



カレーをのせて
いただきます



稲刈り体験



種まき体験(大根・カブ・ニンジン)



大きくなあれ〜!

木を使ったスプーンづくり



餅つき体験

もち米
ぺったん



丸めるよ〜



つきたての
お餅は格別



■ 当社が管理運営する6つの施設



いちご収穫体験



サツマイモ収穫体験



みかん収穫体験



花まつり



ブドウ収穫体験



野菜収穫体験



門松づくり



花壇づくり



米づくり体験



ブドウづくり体験



ブドウ収穫体験



くりわくわく収穫体験



そばづくり体験



夏の里山観察会



草木染体験

今津リフレッシュ農園

場所	福岡市西区今津5685	
形態	農園型公園(福岡市)	
面積	7.0ha	
施設	休憩ハウス付き農園、集合農園、 棚式農園、芝生広場、いちご園、研修室	
電話	092-806-2565	
URL	http://imazu-q-rin.co.jp/	

西南杜の湖畔公園

場所	福岡市城南区七隈6丁目 外	
形態	運動公園(福岡市)	
面積	12.3ha	
施設	軟式野球場、テニス場、球技場、 多目的広場、芝生広場、樹林・竹林	
電話	092-863-7929	
URL	http://seinan-mori-q-rin.co.jp/	

かなたけの里公園(2社JV)

場所	福岡市西区大字金武字の管1367	
形態	農村型公園(福岡市)	
面積	12.7ha	
施設	田、畑、貸し農園、ブドウ園、ミカン畑、 クリ園、屋外炊事棟、BBQスペース	
電話	092-811-5118	
URL	http://kana-takenosato.jp/	



当社では、2008年から公営の公園・農園の指定管理者業務に取り組んでおり、2021年3月末時点で、福岡県や福岡市、北九州市から6つの公園・農園の指定管理者に指定され、「協働」をテーマに地域に根付いた公園の管理運営を行っています。

各施設では、体験学習やボランティア活動、収穫祭やスポーツ大会の共催による地域振興など、様々なイベントを開催し、学びや遊び、健康促進の場の形成に「緑」を通じて取り組んでいます。

北九州市立文化記念公園

場所	北九州市小倉南区田原5-1
形態	運動公園(北九州市)
面積	11.5ha
施設	総合運動場、庭球場、文化記念プール、バランススクーターコース、スポーツ教室、会議室、和室、調理室
電話	093-473-9230
URL	https://bunkakinen.q-rin.co.jp/



地域花植え



地域ボランティア清掃

県営筑豊緑地(4社JV)

場所	福岡県飯塚市仁保8-25
形態	運動公園(福岡県)
面積	51.0ha
施設	野球場(ナイター設備有)、テニスコート(15面)、健康運動広場、野外ステージ、プール
電話	0948-82-1023
URL	http://chikuhou-ryokuchi.jp/



水辺の広場



公園風景

夜須高原記念の森公園

場所	福岡県朝倉郡筑前町櫛木3-6
形態	森林公園(福岡県)
面積	22.7ha
施設	芝生広場、管理センター、巨大遊具、緑の迷路、噴水、溪流園
電話	0946-42-0590
URL	http://yasukogen.q-rin.co.jp/



クリスマスクラフト



木工教室



シイタゲ騎打ち



公園ボランティア塗装



私の町の未来の桜プロジェクト



スケッチ大会



子ども祭り



クラフト教室



コンテナガーデンづくり

■ 主な環境関連法規の遵守状況

当社事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。また、関係機関などからの違反などの指摘や利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

全社に共通するもの	緑化事業に関するもの	森林管理事業に関するもの
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性基本法 ・建設物省エネ法 ・温暖化対策推進法 ・グリーン購入法 ・循環型社会形成推進基本法 	<ul style="list-style-type: none"> ・フロン排出抑制法 ・建設リサイクル法 ・浄化槽法 ・廃棄物処理法 ・家電リサイクル法 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源有効利用促進法 ・騒音規制法 ・振動規制法 ・PRTR法
		<ul style="list-style-type: none"> ・森林法 ・自然公園法 ・オフロード法 ・消防法

■ 環境委員会の開催

当社は、環境経営の一環として、環境委員会を年2回開催し、必要事項を審議・決定しています。



環境委員会の様子

環境活動戦略に関する事項を審議調整！

- ①環境活動に関する基本方針・行動計画
- ②環境活動実績の評価・見直し
- ③地球環境問題に関する内外一般情報、技術開発情報の収集・整理、活動の推進
- ④環境活動に関する社内外へのPR

■ 環境マネジメントシステム（EMS）レベル向上に向けた社内環境教育の展開

〈内部監査（運用業務支援）の実施〉

当社は、運用状況確認のため、内部監査を実施しています。業務支援も合わせて実施し、法令改正情報の周知や教育等を行なっています。

〈EA21更新審査〉

EA21では、当社EMSレベルの定着状況を第三者からの審査を受けています。

◆S評価◆（特に優れた点）を全16項目中6つもいただきました！



現場審査
松岡審査員に対応する、北九州営業所 白川所長・河津社員・榎社員

〈九林イノベーションスクールの開催〉

当社では、人材育成と技術力継承を目的に、新たな事業展開への気づきや効果的な業務改善活動を図るため、定期的に社内スクールを開催しています。2020年度は「スマート林業」をテーマにスクールを開催しました。

2020年度テーマ

- ・スマート林業
- ・未来洞察
- ・送電線建設工事高度化・省力化
- ・効果的な情報発信

それぞれのアイデア出し

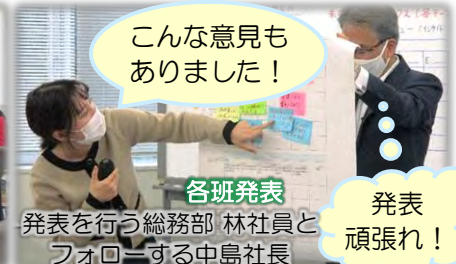


ワークショップ

こんな意見もありました！

各班発表
発表を行う総務部 林社員とフォローする中島社長

発表頑張れ！



〈環境上の緊急時対応訓練の実施〉

環境事故の未然防止の観点から、緊急事態を想定した訓練を実施しています。

有効性検証・改善を図っています！



油漏れを想定した訓練
松浦事業所



燃料漏れを想定した訓練
林業部



燃料漏れを想定した訓練
熊本営業所

代表者による全体評価と見直しの結果

当年度においても、引き続き、環境経営方針及び環境経営目標をふまえた具体的な取組みが着実に遂行されており、環境経営と事業活動が有機的に連携された施策として定着化しているものと評価しています。

会社の業績としてはコロナ感染拡大の影響を少なからず受けましたが、他方において企業に対する脱炭素社会への取組みやESG経営の推進への期待が高まる中、過去から追求してきた持続可能な環境経営を目指す当社の歩みは、社会からの期待に応えるものとして変えてはならないものであることを強く確信できました。今後も環境経営と事業活動を一体のものとして取り組んでまいります。

今年度あらたに策定した中期経営計画に掲げたビジョンである「緑を育み未来を創る」の実現に向け、EA21更新審査においても高い評価を受けた経営品質の水準を維持しながら、更に磨きをかけていくことが大切だと考えています。

「新たな価値の創造」「緑豊かな環境づくり」「人を活かす」という3つの使命感に絶えず立ち返り、皆さんの環境経営に対する弛まぬ努力に感謝し、やりがい・働き甲斐を感じられる職場を醸成し、お客さまの声にも応えていきます。

代表取締役社長 中島 豊





表紙写真【九州電力社有林】について

当社が長年にわたり管理・保育する九州電力社有林内において、2011年に大分県から「次世代の大分森林づくりモデル林」の第1号（山下池山林）に指定された山林です。九州電力社有林では、第5号（飯田山林）と第15号（平家山林）の指定も受けています。